

動物虐待は、やがて凶悪犯罪へとエスカレートする危険性があります。

近年、人に対して暴力的犯罪を犯す者は、多くが動物虐待を行っていることが明らかにされています。この日本においても、そのことを証明する事例が目立つようになってきました。

「たかが猫1匹が殺されたくらいで・・・」と安易に考えないでください。残忍な行為で自分が圧倒的支配者となって、弱い立場の者をいたぶり殺すことができる精神状態になって

いる人間が身近にいる、という事実を重く受け止めてください。このような心の闇を抱えた人間を早期に発見し、ケアしていくことは、将来の更なる重大な犯罪を未然に防ぐかもしれません。

動物虐待事件には、警察・検察・心理学者・教育関係者・動物保護団体、そして一般市民の真剣な対応が望まれます。

動物虐待を見逃ごさないで!!

動物虐待を「軽い」犯罪だとしてやり過ごしてしまう学校や両親、社会や裁判所は、
時限爆弾を見逃ごしているようなものです。



外国ではすでに、このような研究報告があります!!

以下は、現在米国で「全米人道協会」(H SUS)が展開している、『ファースト・ストライク・キャンペーン(動物虐待を最初の一撃で止める)』の主役を務める、同会の教育担当副会長・心理学博士のランダル・ロックウッド博士の研究によります。

もちろん動物虐待をする少年が、すべて殺人犯を犯すとは言えません。特に幼少期の動物虐待は好奇心や通過儀礼的な行動としても起こります。が、7歳を過ぎても繰り返し動物を虐待し、快感を感じているケースでは、その少年が家庭や学校で問題を抱えていないかを調べる必要があります。動物虐待は人間への暴力行為に向かう前

のシグナルです。動物虐待の段階で犯人を捕まえていれば、発生を免れたら殺害事件も少なくない。虐待対象が動物だから、と軽く考えてはいけません。(ロックウッド博士・談)

◆研究報告(数十件ある事例からの抜粋)

- ラッセル・ウェストンJr.は12匹の猫を虐待して殺した。彼はその後、アメリカの首都ワシントンDCで警官2人を殺害した。
- ジェフリー・ダーマーは猫や犬を惨殺していた。彼はその後、少年を含む男性17人を殺害している。
- キップ・キンケルはオレゴン州スプリングフィールドでクラスメート25人に対して発砲し、うち数人を殺している。彼は両親も殺

害しており、牛や猫も殺していた。クラスメートは彼を「第三次世界大戦でも始めそうな奴」と評している。

●リチャード・アレン・デイヴィスは何匹もの猫を殺している。12歳のポーリー・クラウスを寝室で殺害する前には、彼女が飼っていた動物を全部殺している。

●11歳のアンドリュー・ゴールデンと13歳のミッチェルは、犬を虐待し殺している。1998年3月24日、アーカンソー州ジョンズバラで、ゴールデンとジョンソンは学校の防災訓練の間に生徒4人と教師1人に発砲して殺害した。

●動物虐待は犯罪です。 動物の愛護及び管理に関する法律・第6章罰則 第44条(抜粋)

愛護動物をみだりに殺し、又は傷つけた者は、1年以下の懲役又は100万円以下の罰金に処する。

- 愛護動物に対し、みだりに給餌又は給水をやめることにより衰弱させる等の虐待を行った者は、50万円以下の罰金に処する。
- 愛護動物を遺棄した者は、50万円以下の罰金に処する。



資料配付元：日本にアニマルポリスを誕生させよう! <http://www.animalpolice.net>

★外国ではすでに動物と人間の生活を守るために活躍しているアニマルポリスを、ぜひ日本にも!と、私たちは願っています。★